

<書 評>

森山賢一編著『総合演習の理論と実践』A5判

216 ページ 学文社 / 2415 円 (税込)

跡見学園女子大学

山口 豊 一

本書は編著者森山賢一氏が教師教育、とくに教員養成における「実践的指導力」の研究における「総合演習」の理論的研究ならびにその実践について、その成果を教員の現職教育、養成教育に携わっている数名の著者らとともにまとめたものである。

現在、さまざまな教育改革が進められ、教育界は新たな時代を迎えているがこの一連の教育改革の大きな柱の一つは、教員の資質の向上である。教職員大学院や教員免許の更新制度等がその現れである。

本書の「はじめに」では編著者森山賢一氏が教員の資質向上の重要性を以下のように端的に語っている。

「現在、教育とりわけ学校や教師に関して大きな課題が掲示されている。言うまでもなく学校教育において子どもたちに直接関わり、そこで重要な役割を担っているのは教師であり、その教師の資質・能力の向上はよりよい学校教育の創造において中心的な前提となる。」

本書においては、書名の通り「総合演習」の理論と実践に関してまとめられたものであるが、このバックボーン、根底に存在するものは教員養成の改善の方策、教員の資質向上、とくに実践的授業力の育成である。

本書は、3部構成になっている。第1部「総合演習の学習」の第1章から第4章は理論編であり、第2部「地球的視野に立って行動する資質能力を育てる学習」では「総合演習」の実際のテーマ、演習内容について詳細に解説がなされている。第3部については、教育学における演習の方法について理解しやすく論じられている。さらに、巻末には資料編として参考資料が掲載されている。

以下に、各章の内容を敷衍してみる。

「第1部第1章 教育改革と教員養成」では、社会の変化と教育改革について解説がなされ、教員の資質と教員養成について教員に求められる資質や能力が1997年の教育職員養成審議会の答申をもとに詳細に論じられている。さらに、近年大きな改正が実施された教員養成のカリキュラムの要点が述べられ、教職課程の動向が伺える。

本章の最後には、教員養成における「実践的指導力」について、カント (I.Kant) を引き合いに出した深い考察が取り上げられているが、著者の「実践的指導力」のとらえ方は、今後の教員養成にとって大きな影響を与えるものであろう。

以下にその要点となる部分を明示しよう。「実践的指導力を実地指導や実務に従事することを中心とした方法・技術的な習熟のみから生まれる指導力といった狭い理解をせず、さらに広く、深く主体的、自主的な理解や判断に土台を据えた実践から生まれる指導力と理解する必要があると考えられる。」

「第1部第2章 教育改革と『総合的な学習の時間』」では、「総合演習」とかかわりの深い「総合的な学習の時間」の創設の経緯、教育課程上の位置づけ、評価さらには「総合演習」と「総合的な学習の時間」と

の関連について論じられている。特に評価については評価の観点、さらにはポートフォリオ評価法の実際等、詳細に解説がなされて興味深い。

それに続く「第1部第3章 総合演習の目的とねらい」は「総合演習」が設置された背景を教養審をはじめとする答申との関係から明確にまとめ上げている。

ここでも教養審が求める教師像について触れ、それとの関連によって「総合演習」の設置、意義が浮き彫りにされている。

第2部においては、実際の演習テーマである、人間・人権の尊重、地球的環境、異文化理解、少子高齢化と福祉、家庭の在り方と教育について解説されている。統計的資料や図などが適宜配置され、理解しやすい配慮がされている。

第3部では、演習形式の進め方がわかりやすく説明されている。教師の職務と演習、ディスカッション、ディベート、ロール・プレイ、スピーチ、ワークショップ、ブレインストーミング、プレゼンテーション、調査・研究・体験活動といった演習のねらい、進め方が解説されていて利用しやすい。

分担執筆者の一人である上松氏が言うように、「地球的視野に立って行動するための資質能力を育てるためのツール」としての活用が期待される。

本書が各大学における教員養成において十分に活用されることはもちろんのこと、現職の教員の方々にも是非すすめたい専門書の一冊である。